

生野は古くから銀山の町として栄えた  
 銀山は巨大な富を生み、全国から人が集まった  
 独特な文化を醸し出す町並みが、今に残る

# 裏路地探検

## 生野の路地を歩く／生野町口銀谷

生野町は播磨と但馬の境界に位置し、銀山の町として栄えてきた。一説には大同2年(807)から銀の発掘が始まったと伝えられ、文献によると本格的な採掘が始められたのは、室町時代天文11年(1542)という。江戸時代は幕府の直轄地として歴史を歩んできた。銀山の隆盛にともなうて、江戸や京都、大阪との往来もひんばんに行われ、独自の文化が生まれた。

国境の播磨口番所や生野代官所を取り巻くように形成された生野町口銀谷の町並みは、狭く入り組んだ路地が多く、どの路地を入っても格子、土壁、漆喰などの趣向を凝らした家が並ぶ。江戸期の建物も数多く残っている。

生野町には、40人前後の地役人がいたという。地役人とは江戸

取り残された家々が残る社宅跡。出窓の細工は関東の町屋風を取り入れられているとか。

赤瓦が使われている地役人の邸宅だった住居

狭い路地が格子のようになっている

生野町役場

地役人の邸宅

現在も住まれている地役人の邸宅。どっしりとした構えが歴史を感じさせる。中の見学はできないのでご注意ください。

カラミ石はひと固まりで100kgにもなるという。鉱山近くにカラミ石が多いのは、持ち運びが大変だったためではないかと考えられている。

お寺の塀や階段にも、カラミ石が多く使われている

●裏路地探検隊員募集  
 平成16年1月17日(土) 八鹿町八木

\*実施日の10日前までに、18ページ掲載のT2編集部へ、住所・氏名・年齢・電話番号・「裏路地参加希望」とお書きの上、ハガキでお申し込みください。開催は午前中、現地集合・現地解散となります。申込締切日後、案内を参加ご希望の方へ送付致します。

から赴任する代官などに対して、代々生野銀山に住んだ地元の人々のことで、銀山の監督や番所の監視など幅広い役目があった。地役人の邸宅は玄関前に広場があり、道路に面した庭があるなど共通のつくりになっていて、現在でも昔の面影を残す邸宅が10カ所くらいある。

生野銀山で働いた人々は数知れないが、それぞれの時代によってさまざまな歴史の足跡が残っている。生野銀山が三菱合資会社の経営になったのは明治29年。口銀谷の細い細い路地を通り、少し急な坂を登って出た小高い場所には、三菱の社宅群があった。東京

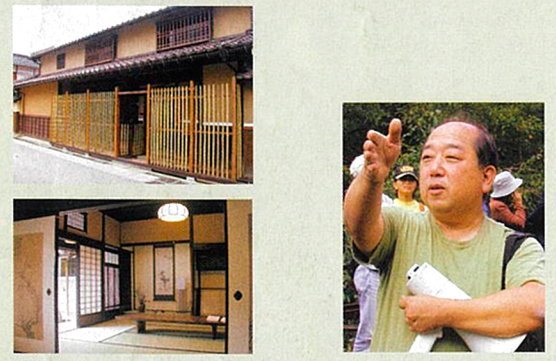
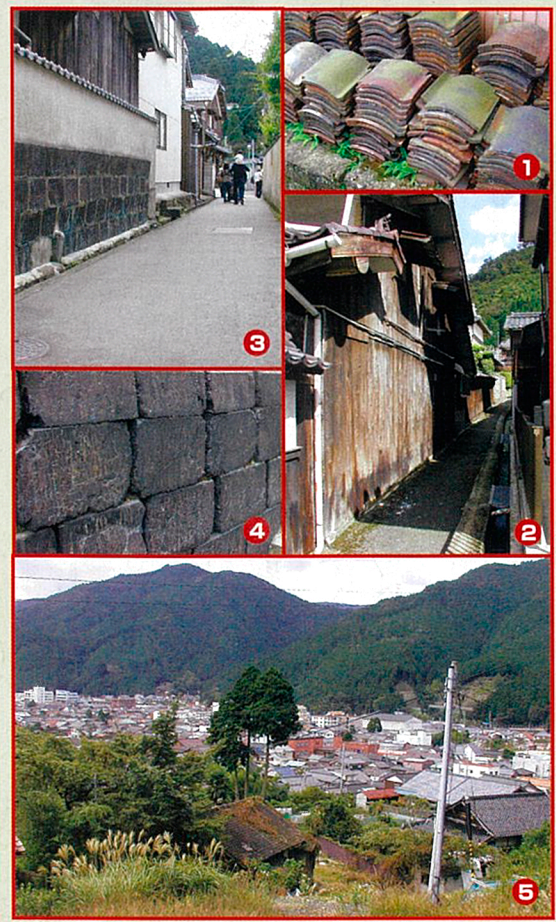
から配属された人たちが住んでいた。住宅の出窓などは関東の様式を取り入れてつくられたのではと考えられている。現在は誰も住む人はいない廃墟。ここから生野の町が一望でき、高級住宅街、山の手といわれたであろう当時の面影を偲ぶことができる。

寺町は寺が8つも並ぶ。狭い範囲にいろいろな宗派が集まっており、全国的にも珍しい一角だ。平成15年6月に開館した「生野まちづくり工房井筒屋」は、新しい立ち寄りスポットとして人気がある。井筒屋は江戸時代に生野銀山の有力な山師であった吉川家が営む郷宿であった。郷宿とは公

用で代官所に出頭する人々のための宿のことである。主屋は天保3年(1832)に建築されたことが明らかになっている。現在は吉川家寄贈の史料展示や蔵ギャラリー、会議室、手づくりクッキーや小物などの販売もある。歴史を感じる部屋で一服すれば、時間がたつのを忘れてしまいそうだ。

生野の町がいに銀山とともに生きてきたか、路地を歩けば見えてくる。細く入り組んだ路地の家々は、きれいに掃き清められ、季節の花が飾られ、そこに生きる人たちの心意気や文化を感じることが出来る。

1. ストック用に保管されている生野赤瓦
2. 狭い路地が迷路のように入り組んでいる
3. カラミ石を塀に使った家のある路地
4. カラミ石のアップ。どっしりとして大変重い
5. 高台から望む生野の町並み



案内をしていただいた海崎陽一さん  
 口銀谷の町並みをつくる会事務局長をされており、生野の案内を頼めば快く引き受けられます。依頼する場合は生野町まちづくり政策課まで連絡を入れてください。  
 TEL079-679-5810

生野まちづくり工房 井筒屋  
 開館時間／午前9時～午後5時  
 定休日／月曜日(祝日の場合は翌日)  
 入館料／無料  
 TEL 079-679-4448